

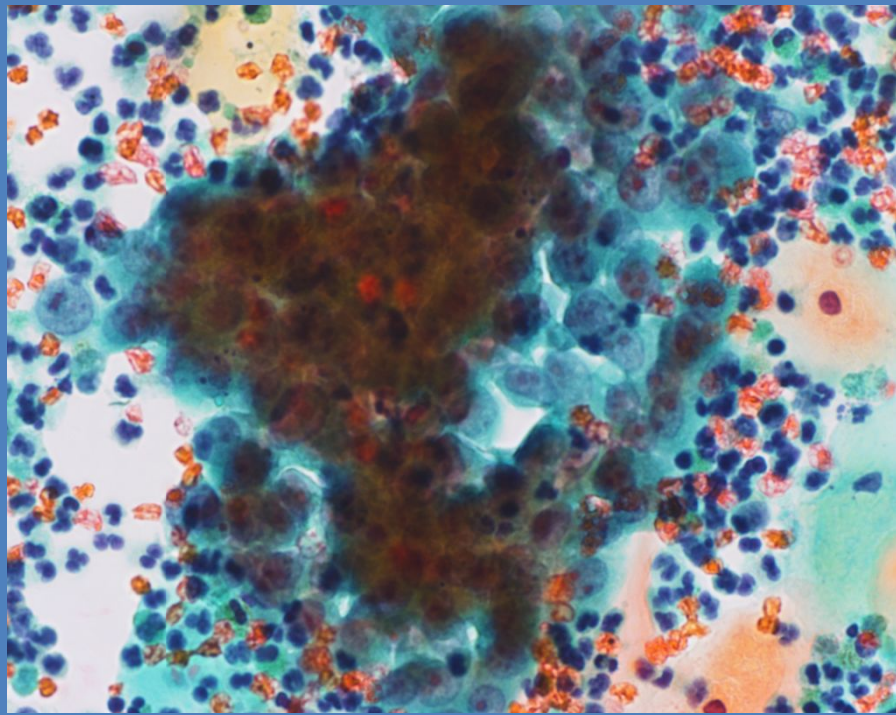
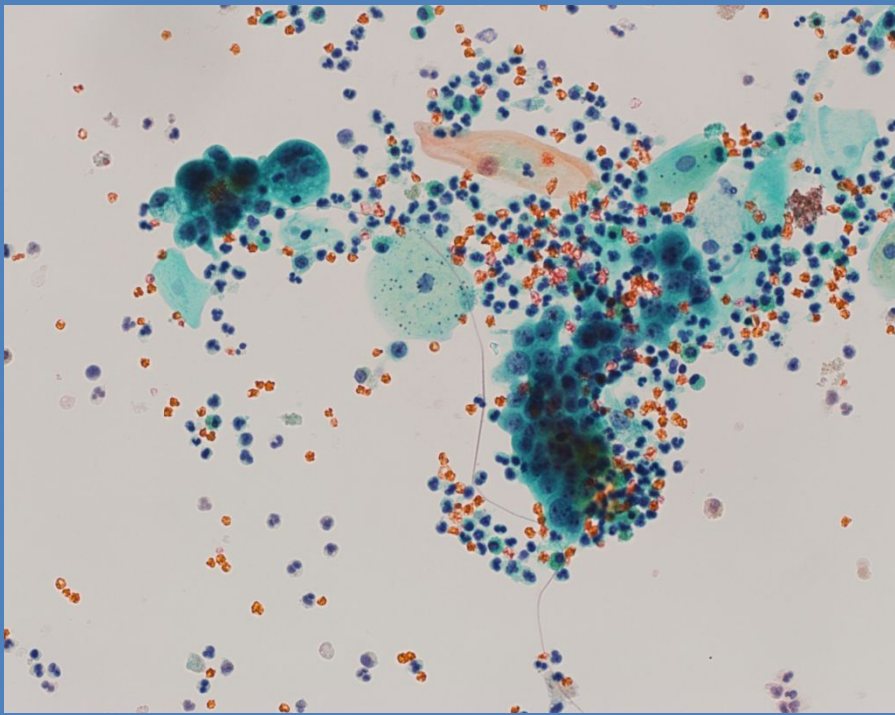
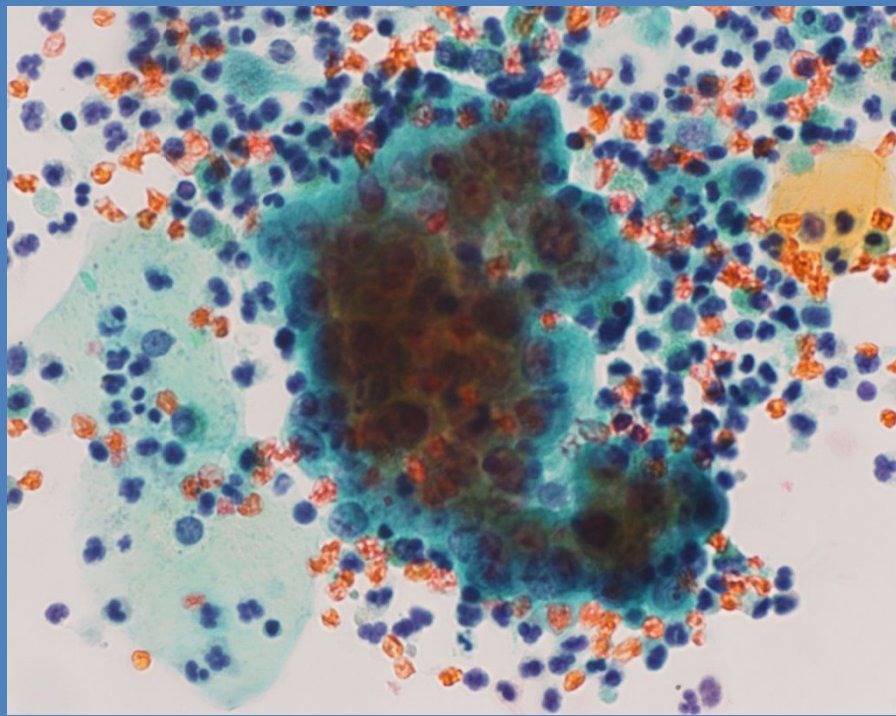
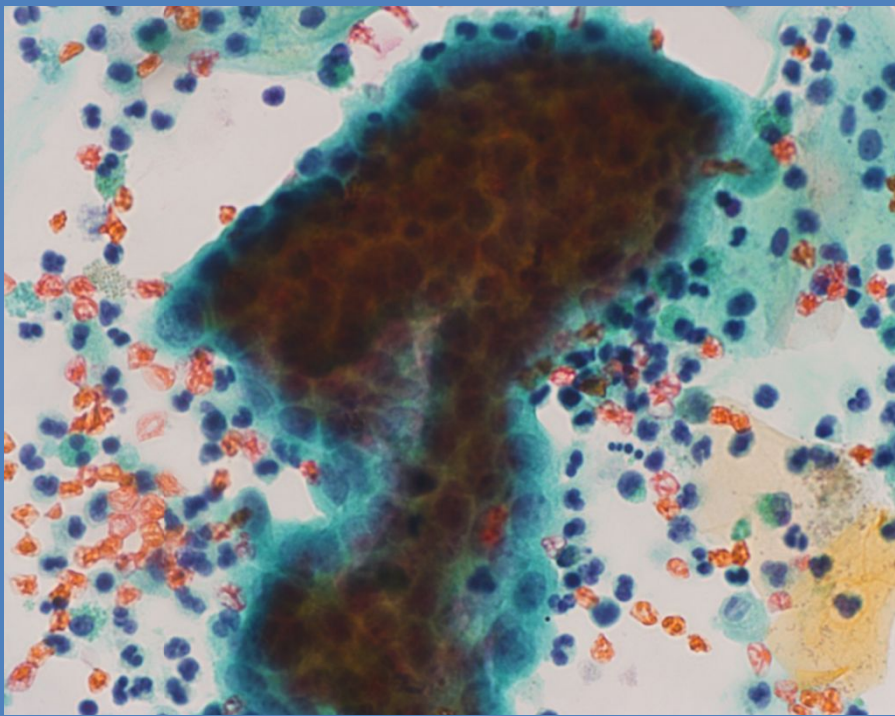
【症例1】

年齢：80歳

性別：男性

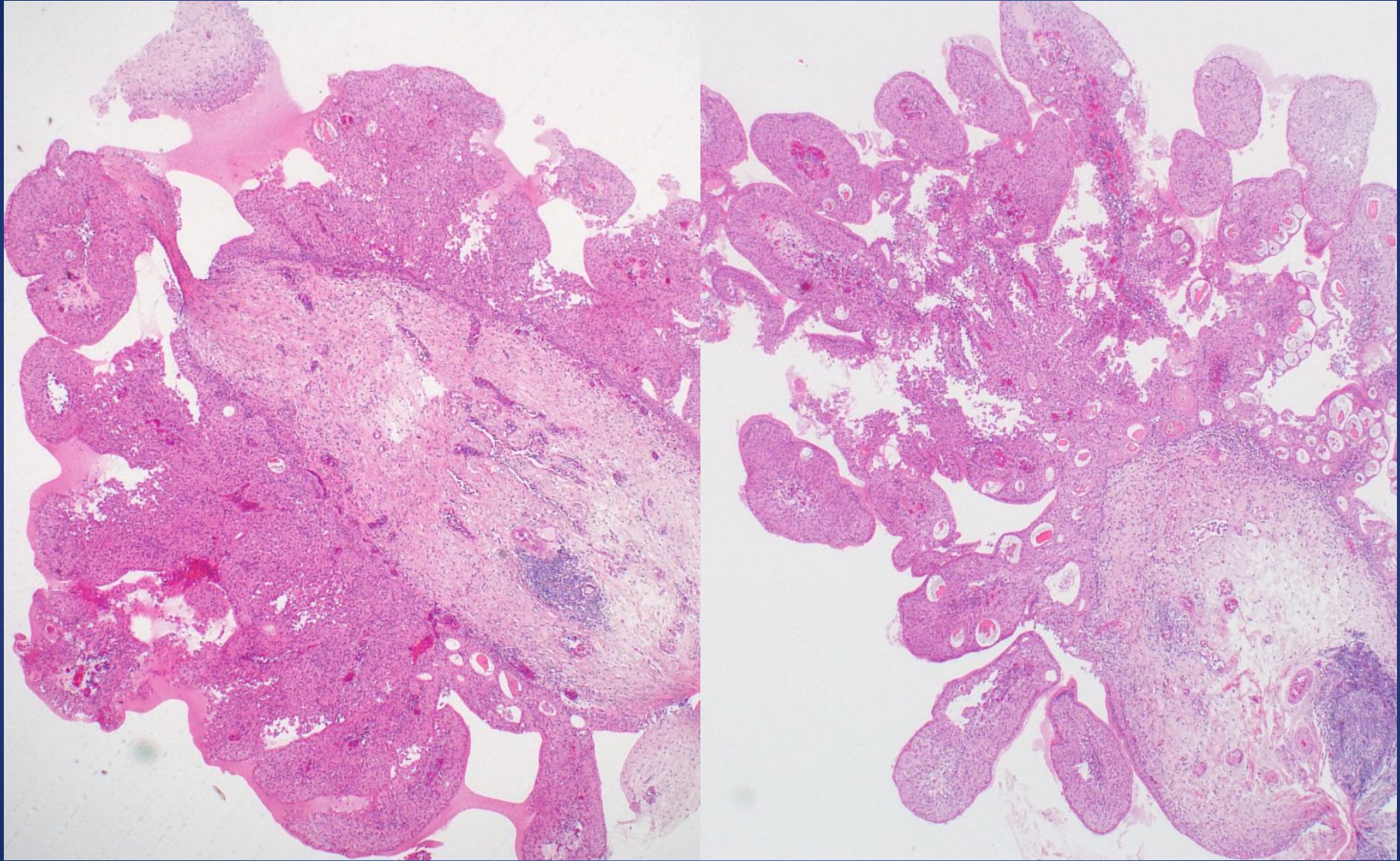
採取材料：自然尿（フィルター法）

主訴：血尿

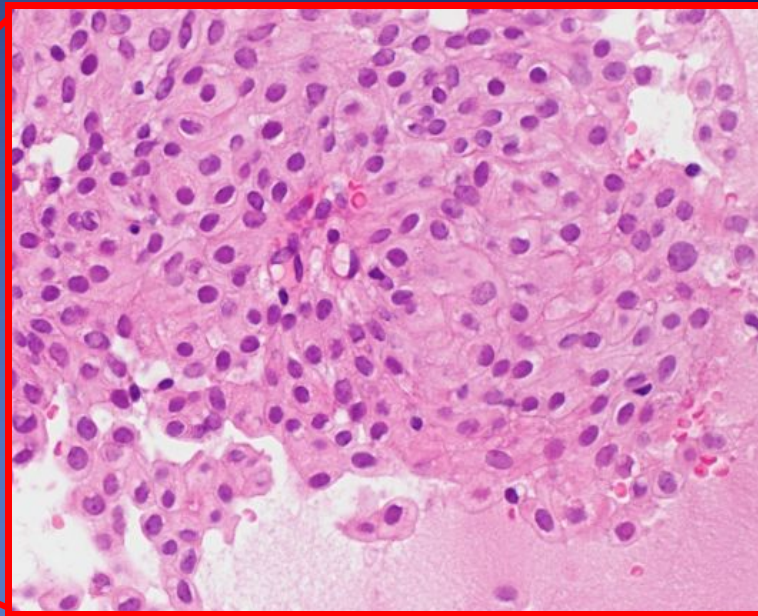
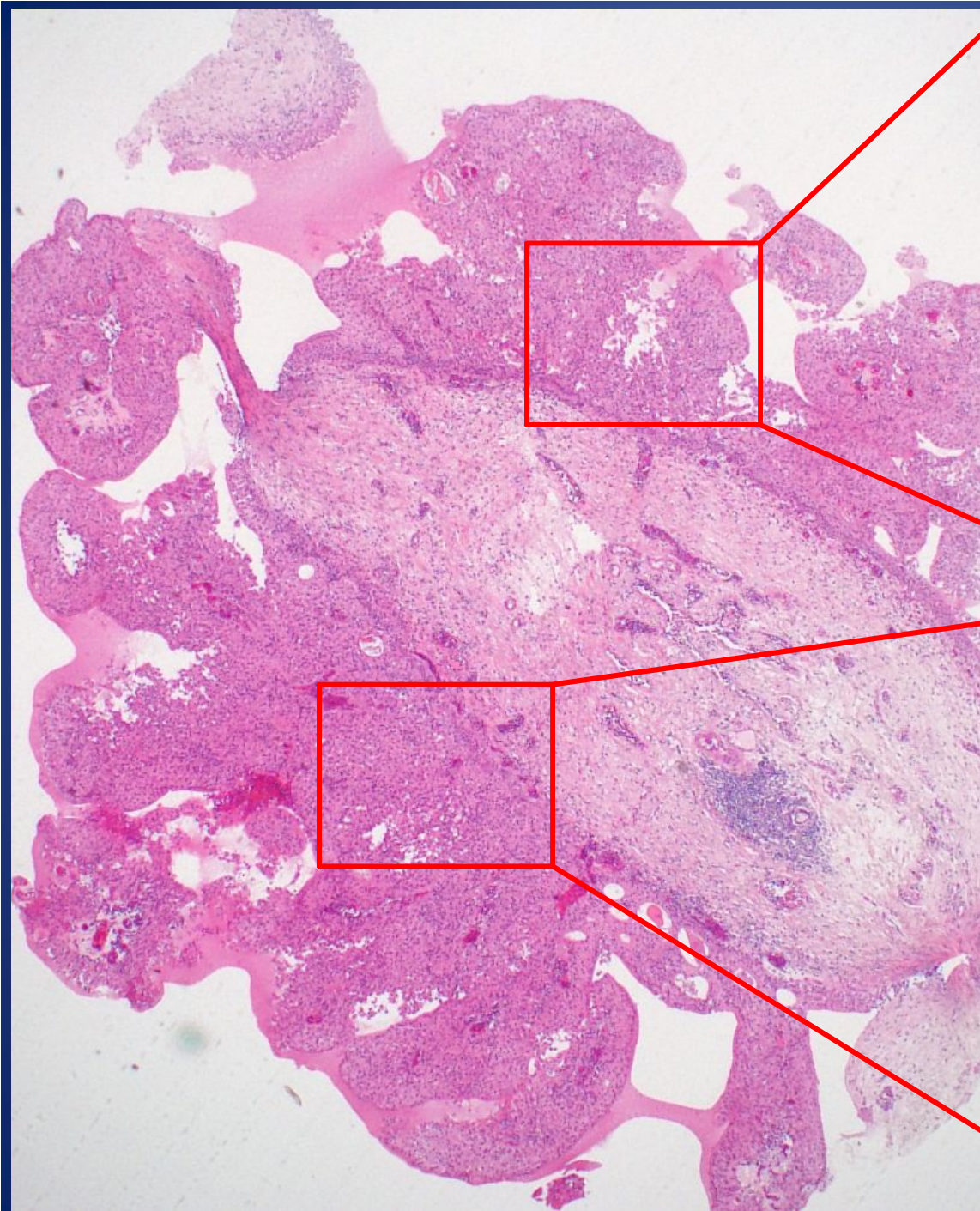


Class III

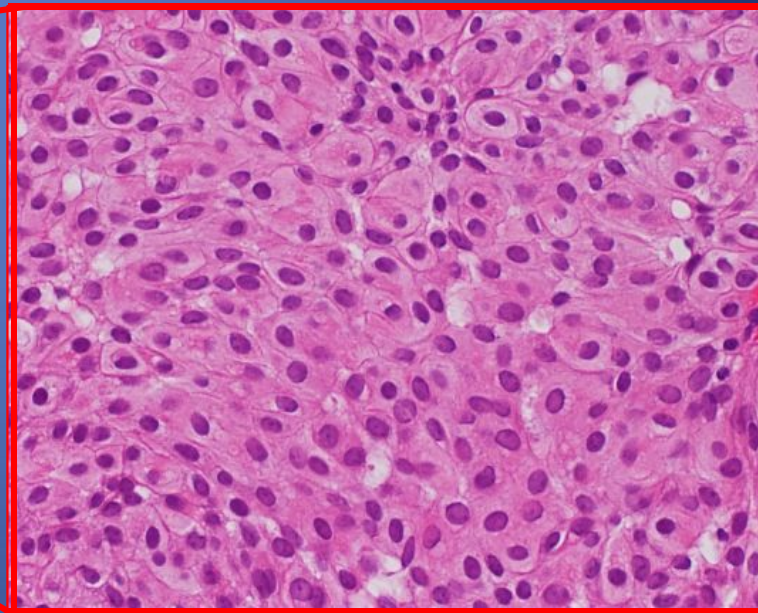
悪性を疑うが、反応性による変化も否定できない。
Follow upが望まれる。



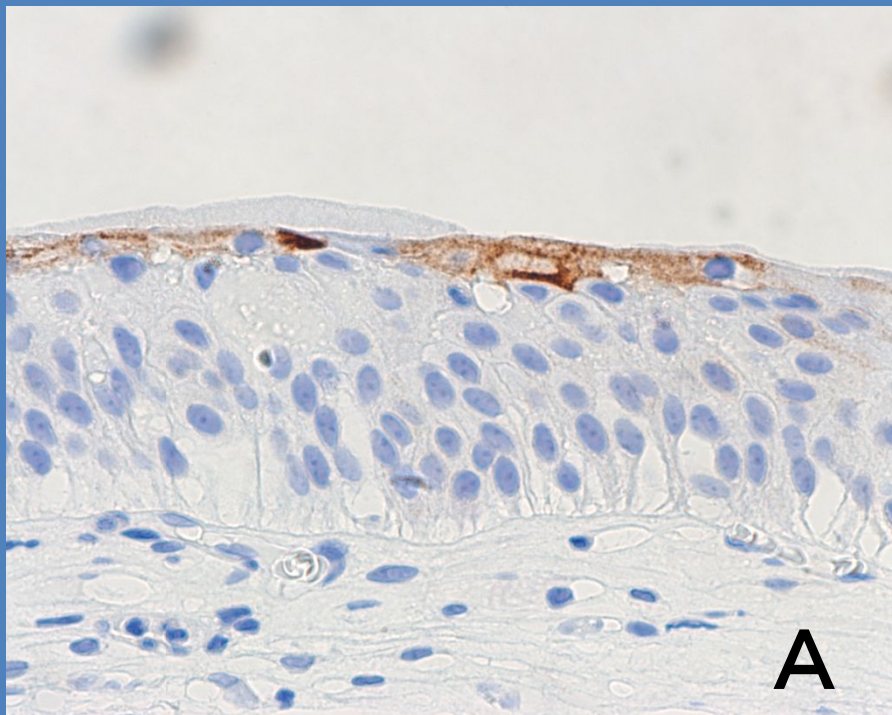
左右側壁、後壁の複数か所に乳頭状病変が認められたため、経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-BT)が施行された。採取された組織のルーペ像



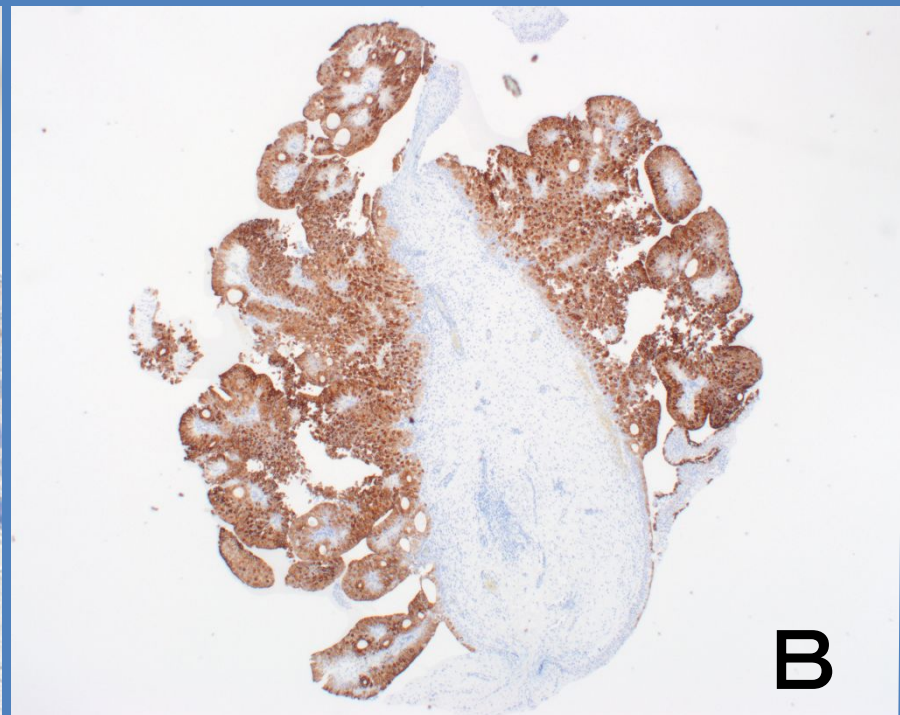
表面被覆の消失した部位



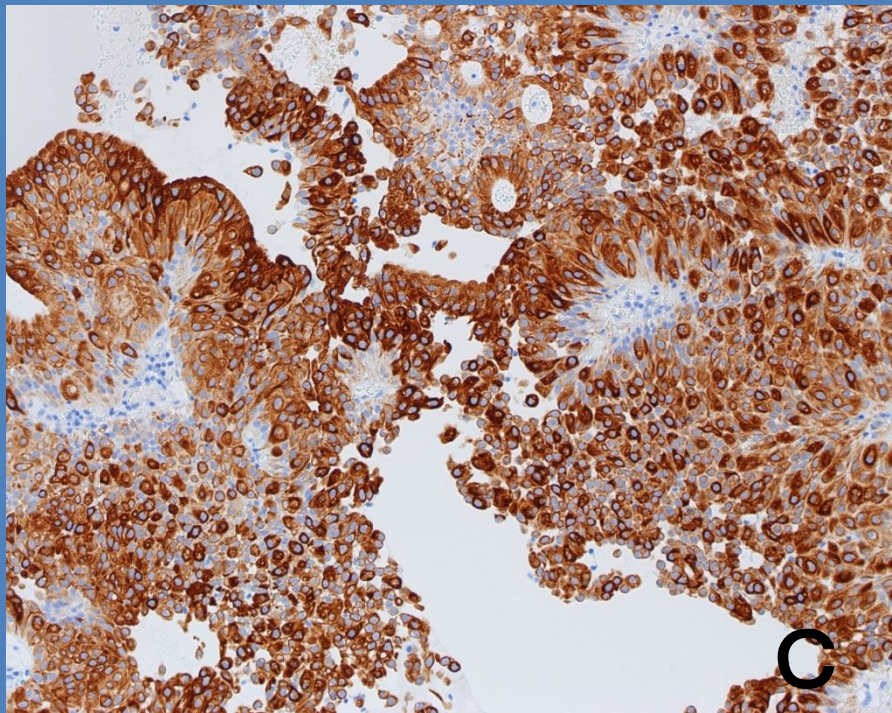
極性の乱れを認める部位



A



B



C

CK20による免疫染色

A) 正常尿路上皮細胞

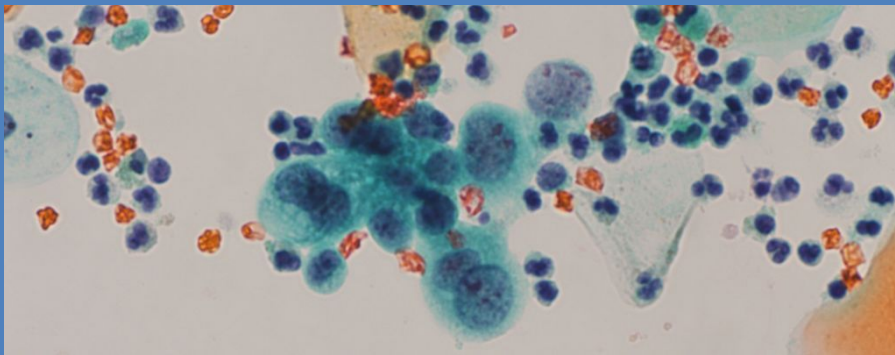
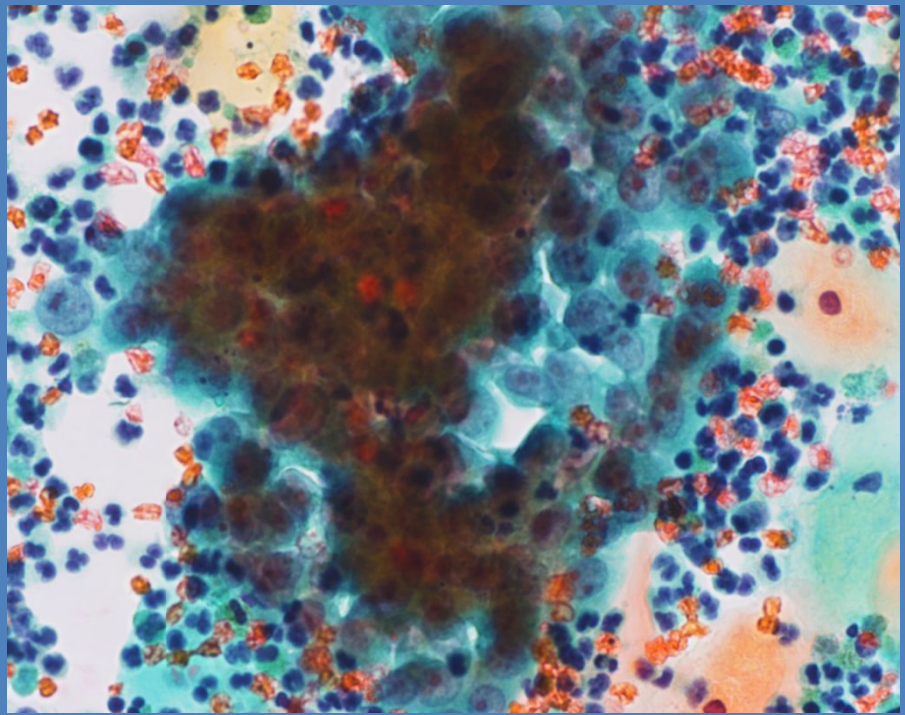
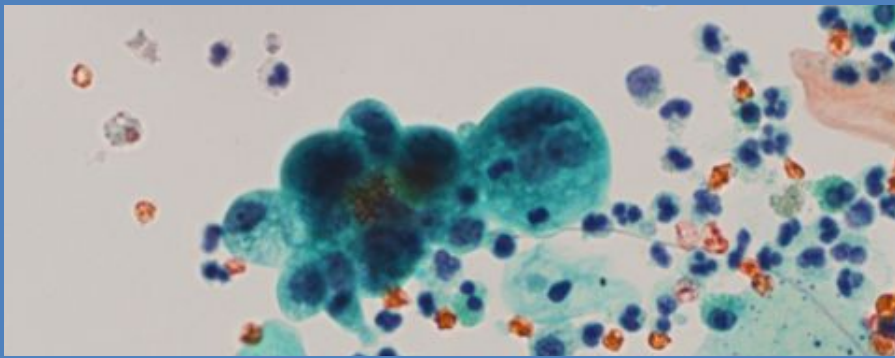
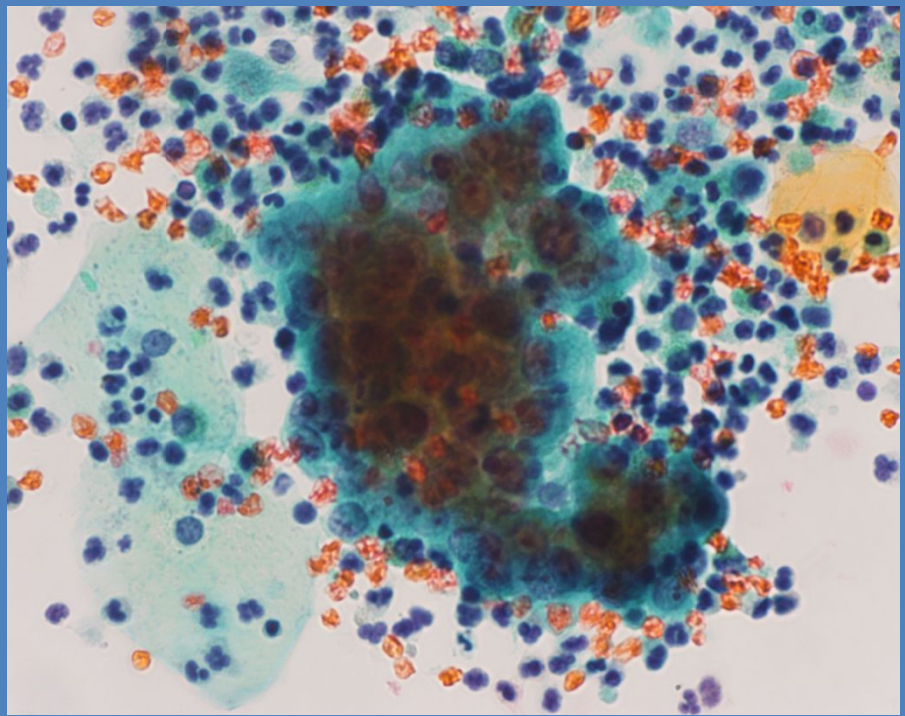
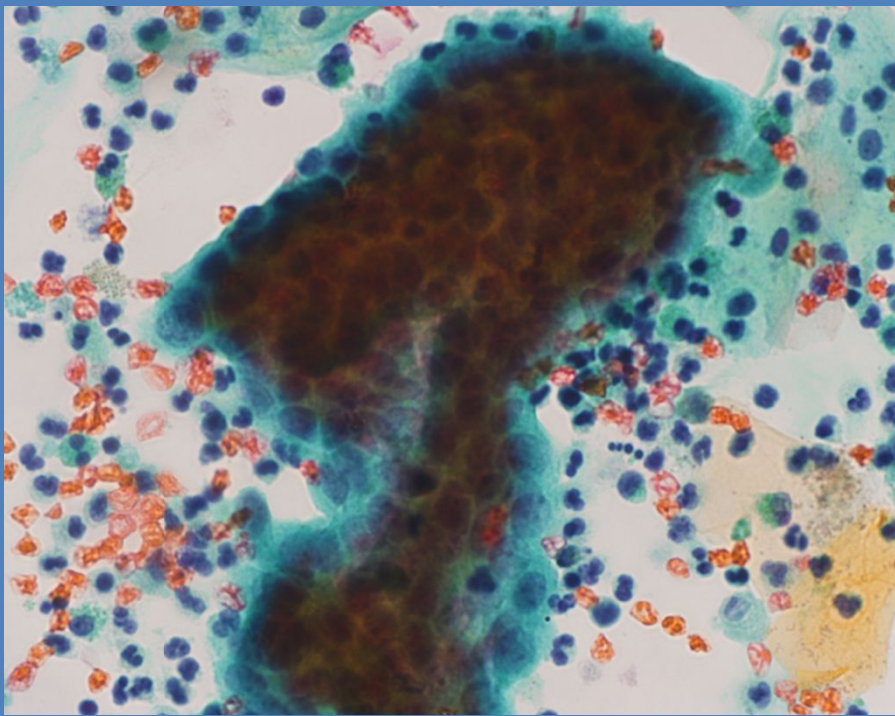
B) C) 本症例。全層にわたり
陽性像を認める

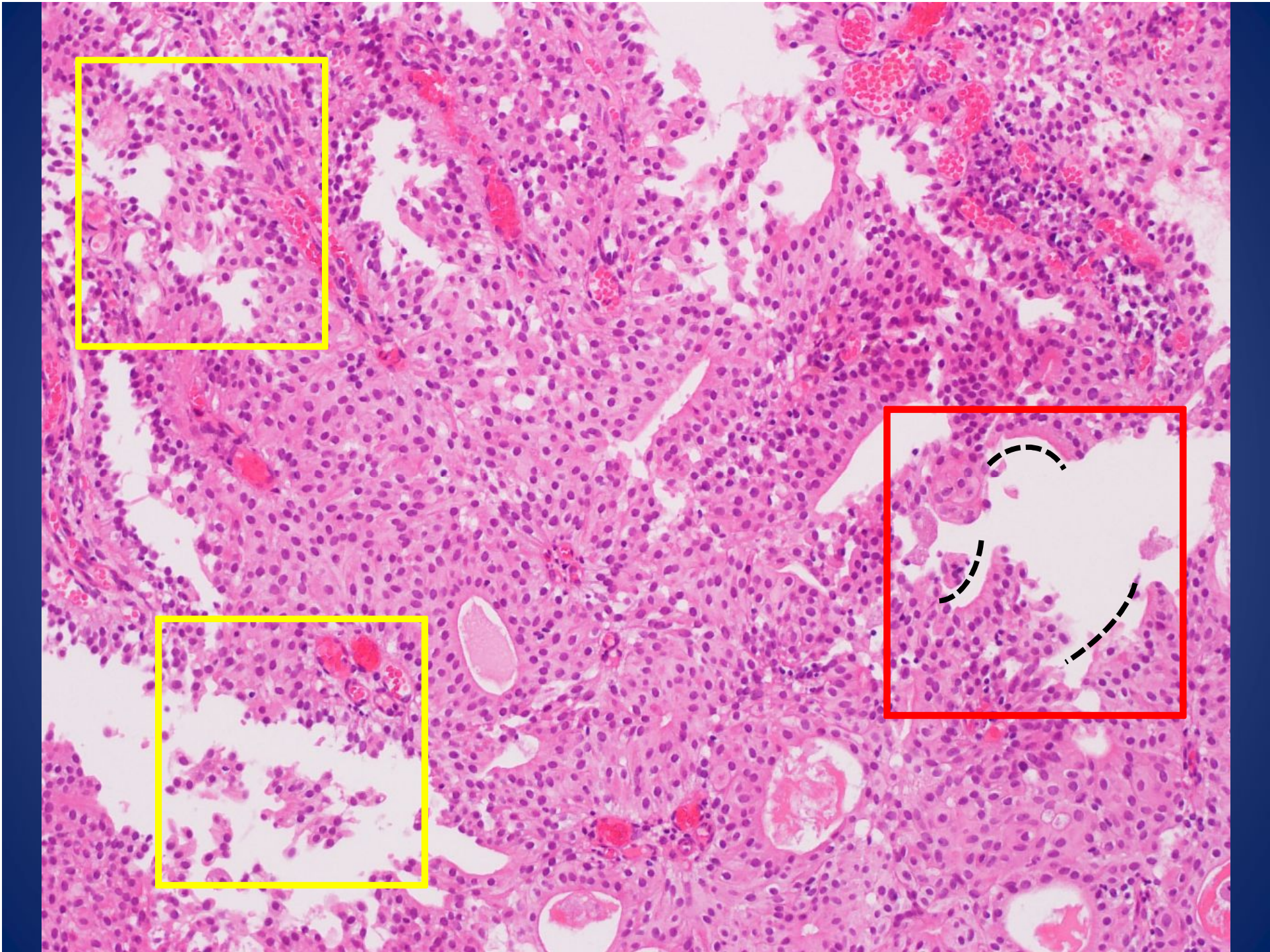
Non-invasive papillary
urothelial carcinoma,
low grade

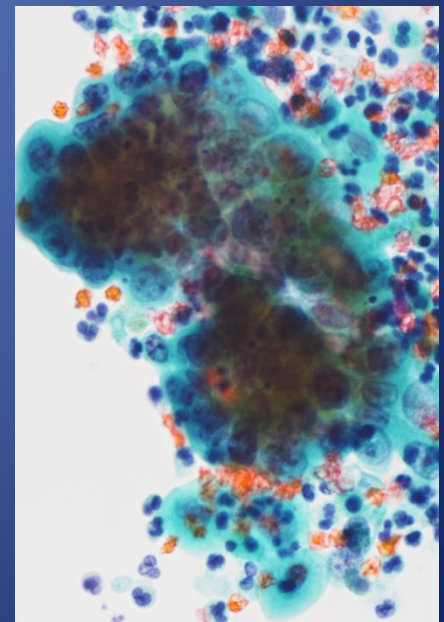
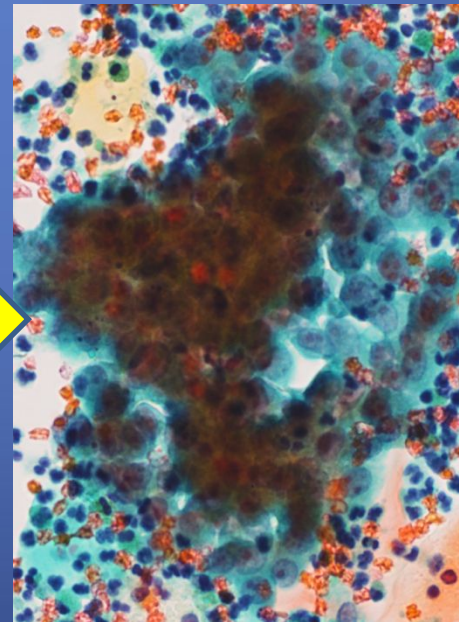
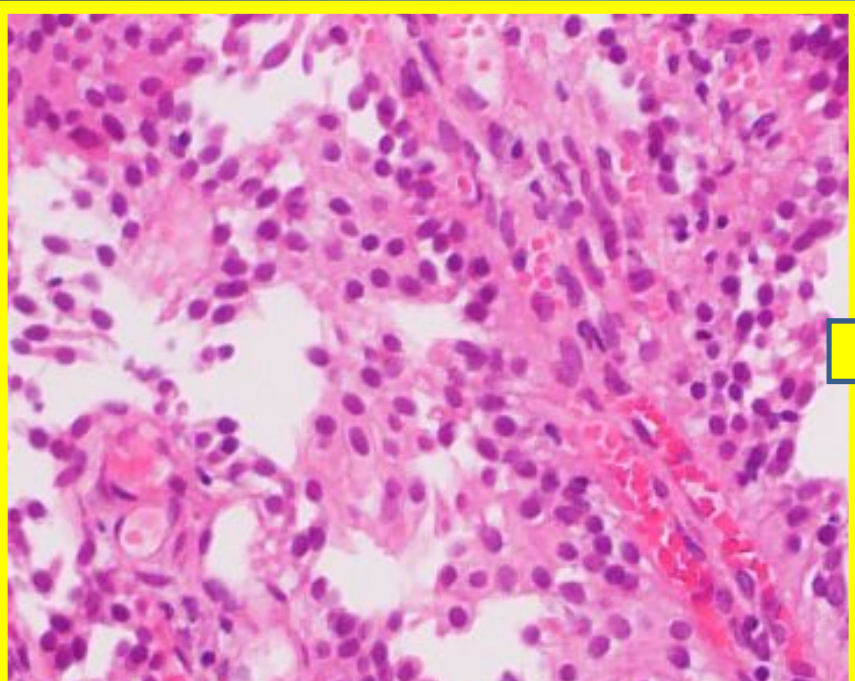
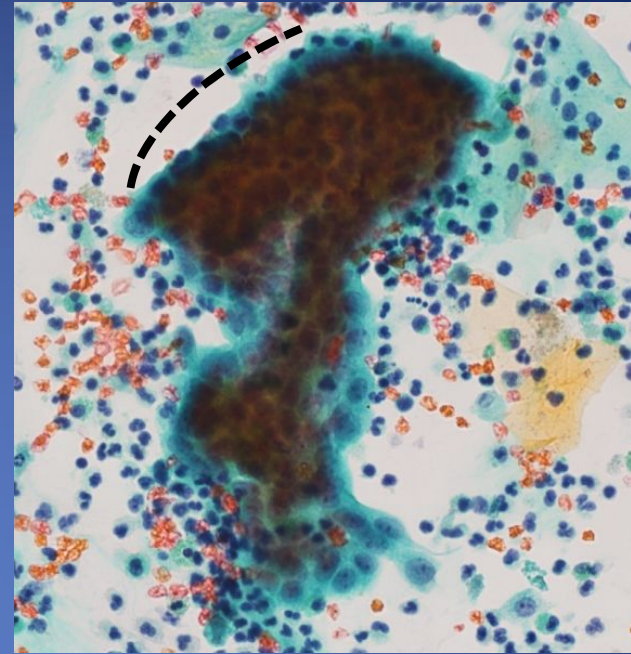
低異型度非浸潤性
乳頭狀尿路上皮癌

低異型度乳頭状尿路上皮癌

- 非浸潤性乳頭状尿路上皮癌の異型度の評価については、腎盂・尿管・膀胱癌取扱い規約第1版で旧3段評価(G1,G2,G3)から低異型度(low grade)・高異型度(high grade)の2段階に変更している。
- 発生頻度：5人/10万人、平均発症年齢：70歳、男女比：3:1、
- 単発～多発腫瘍、再発リスク↑







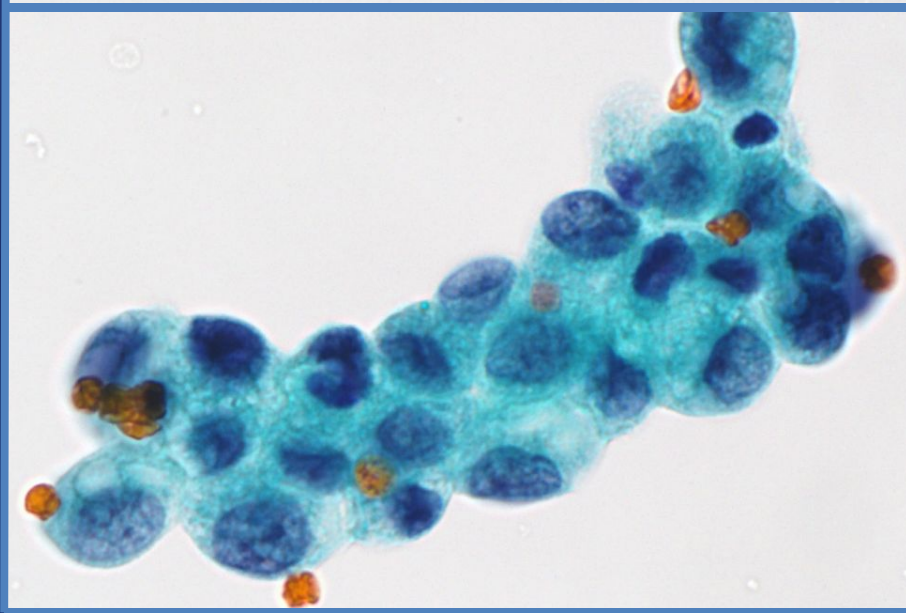
【選択肢】

- ① 反応異型尿路上皮細胞
- ② 低異型度尿路上皮癌
- ③ 高異型度尿路上皮癌
- ④ 腎細胞癌

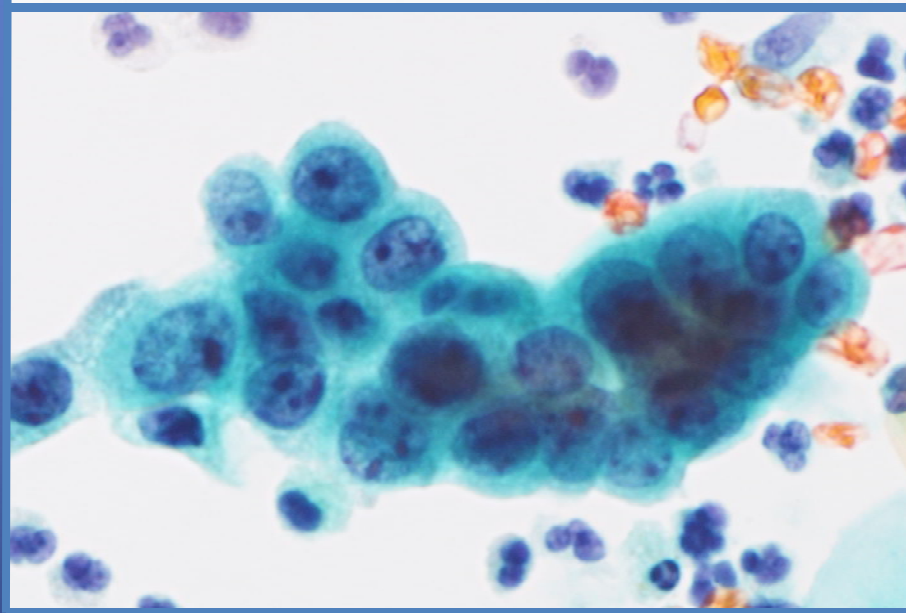
【選択肢】

- ① 反応異型尿路上皮細胞
- ② 低異型度尿路上皮癌
- ③ 高異型度尿路上皮癌
- ④ 腎細胞癌

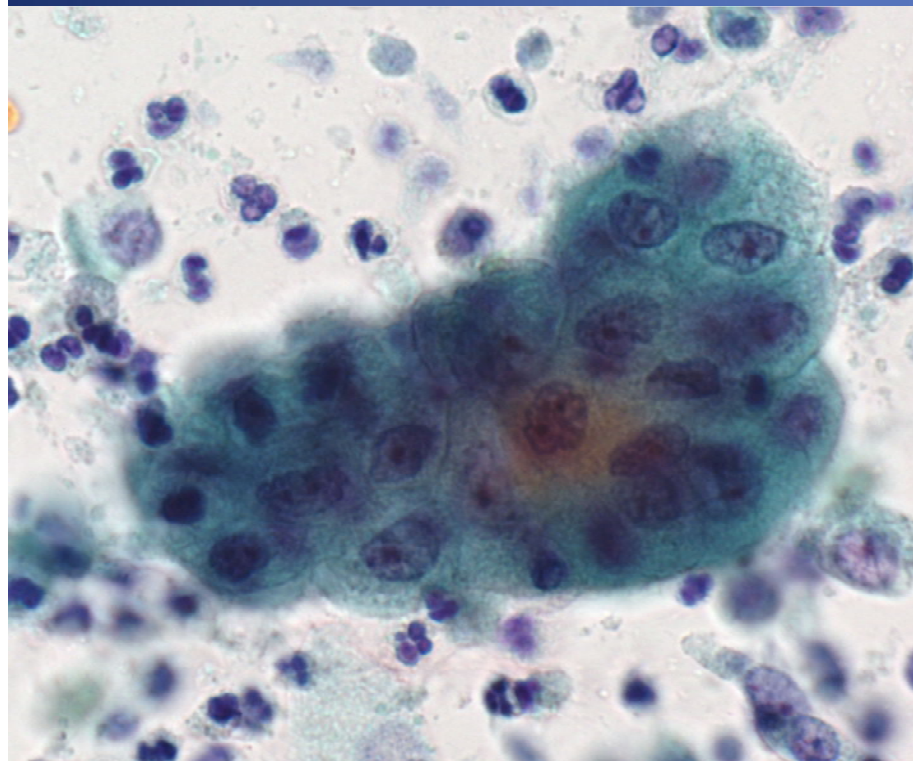
反応異型



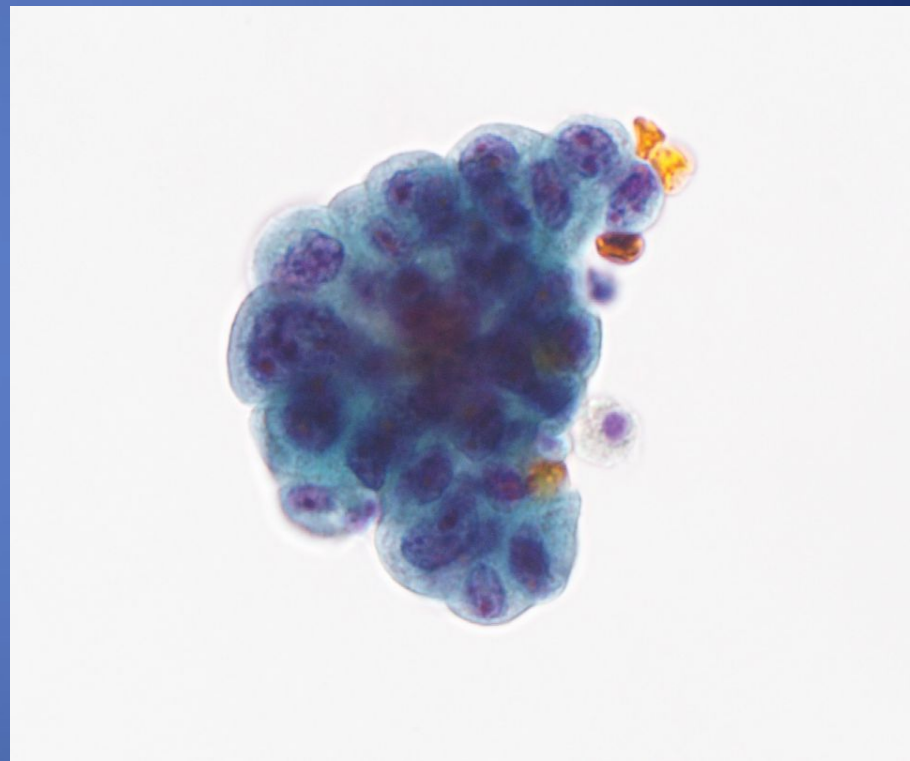
低異型度UC



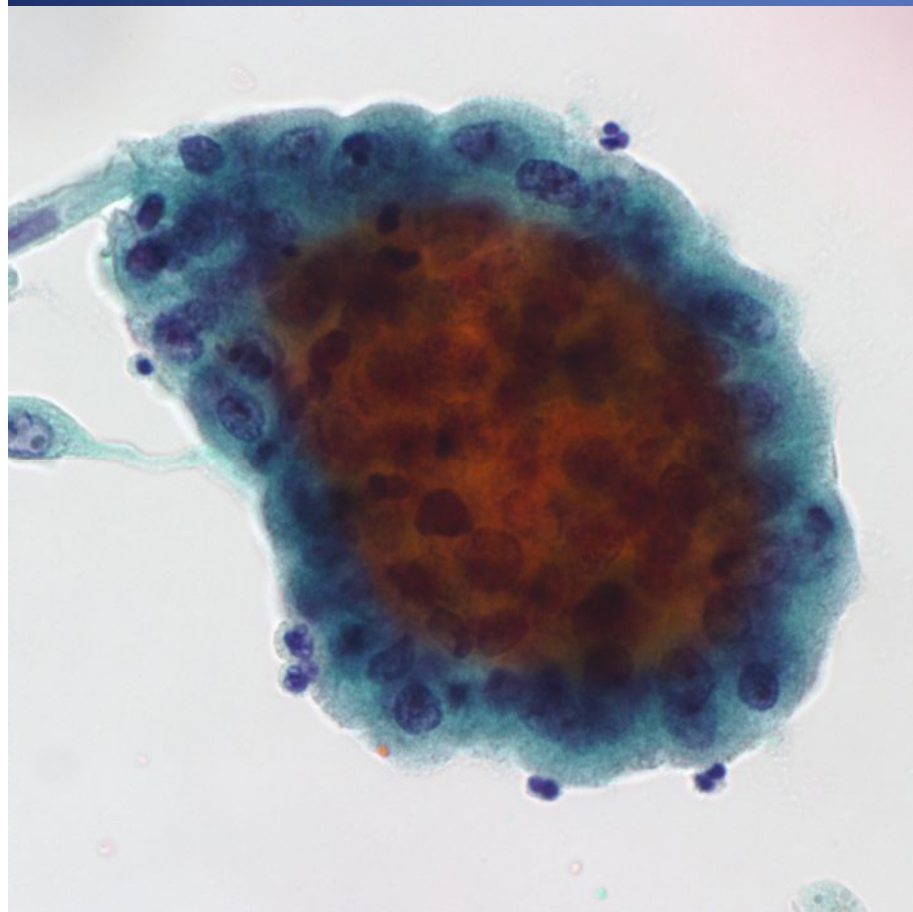
反応異型



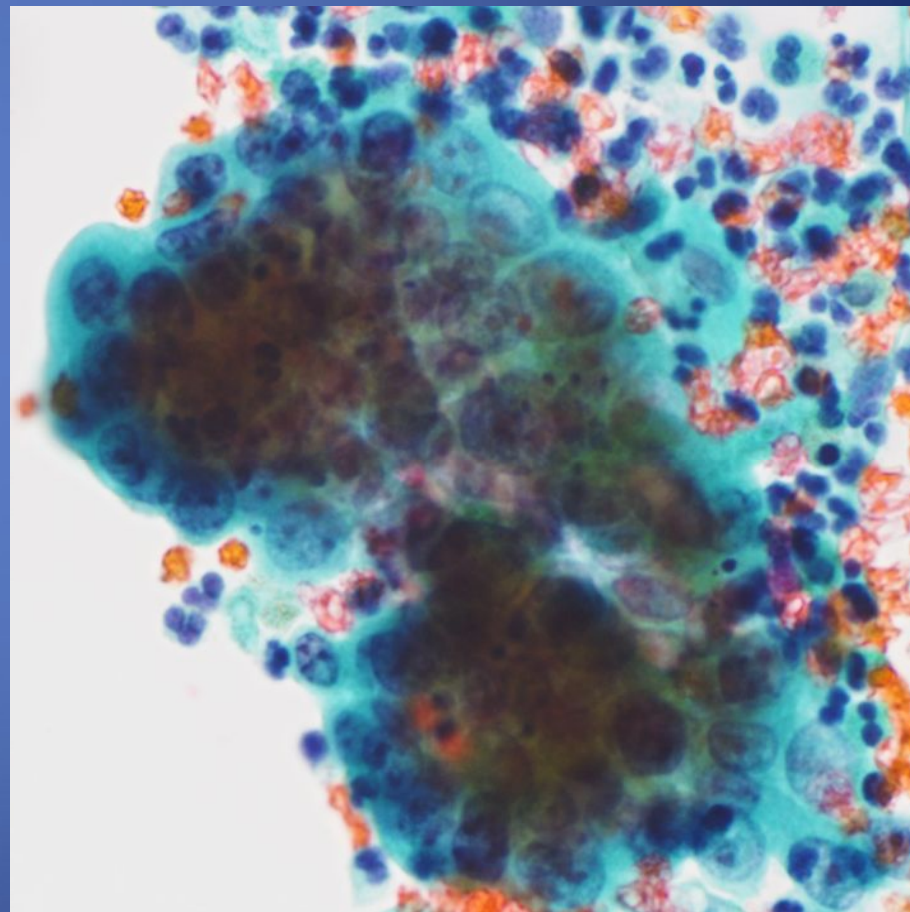
低異型度UC



反応異型



低異型度UC



		反応異型尿路上皮	低異型度尿路上皮癌
細胞異型	核形	円形～類円形	円形～類円形
	クロマチン増量	乏しい	乏しい～軽度
	N/C比	正常～軽度増大	軽度増大
	大きさ	時に増大	やや増大
	形態	集塊内では均一	やや多様
構造異型	被蓋細胞	しばしば認める	少数、ほとんどなし
	核極性の乱れ	—	+/-
	集塊の大きさ	小～中	小～中～大
	細胞密度	低い	やや高い
	集塊辺縁	スムーズ	ややほつれ傾向

【まとめ】

- 結石や機械的刺激のない状況の自然尿において尿路上皮の集塊が多数出現したときには、個々の細胞異型が弱くとも注意が必要である。
- 集塊の大きさ、細胞密度、結合力など総合的な観点から評価し、判断することが望まれる。